

・派遣生の基本情報

氏名 山中信彦

所属研究室 文学部言語文化学科スラヴ語スラヴ文学研究室

学年 3年

派遣形態 推奨プログラム

・派遣先の研修プログラムの名称

ロモノーソフ記念モスクワ国立大学国際教育センター国際夏季語学講座

・派遣先の研修プログラムの基本情報

国名：ロシア

都市名：モスクワ、

研究教育機関：Центр международного образования МГУ（ロモノーソフ記念モスクワ国立大学 国際教育センター）

プログラム名：Программа содействия развитию гуманитарных и общественных наук будущего поколения（次世代人文社会学育成プログラム国際夏季語学講座）

・派遣期間

出発日 2011年7月22日

帰国日 2011年8月22日

総日数 31

・研修スケジュール

集中コース（週24時間）

月・水・金 10時～13時

火・木 10時～15時

毎週金曜日にエクスカーションが入る場合もあり（行き先は前日までに話し合って決定）

自己評価

（1）当初の計画の概要

私の研究対象は、東欧から亡命し、世界各地で活動を行った作家の文学である。そのために、それぞれの国の文化、亡命した先の文化だけでなく、それらに歴史的に大きな影響を与えてきたロシア文化への理解が重要である。そのため、語学教室に参加してロシア語やロシア文化についての理解を深め、あわせて、ロシアにおける東欧（特にチェコ文化）とのかかわりを、現地での古本・新刊を含めた資料の探索・入手を通じて調査する。

(2) 実際に達成された成果

資料の収集については、複数の書店で、チェコ文化・文学・芸術・政治など、幅広い分野に関するロシア語の文献を入手することができた。今後論文の参考に読んでいく予定である。また、新刊書店においては、カレル・チャペックやミラン・クンデラなどのチェコ文学のロシア語訳や、プラハへの旅行ガイドなどが、ソ連時代から現在を通じて多数出版されていることを確認できた。その一方で、英語やドイツ語に比して、チェコ語をはじめとする東欧諸言語の学習書はあまり置かれておらず、チェコ文化との関わり方は日本と同質のものに感じられた。

語学研修においては、入手した文献、特に文学作品を読む上で必要となる、基礎的な会話の習得を主に行った。授業は反復練習が主体で、実生活で応用できる表現も多かったため、買い物等のみならず、文献を読む上でもおおいに参考になった。また、授業中には質問の時間も多く取られたため、日本文化のロシアにおける受容などについて話し合うことができた。

(3) 感想

今回の語学講座に参加したことで、今までおろそかになっていた基礎的文法事項についての学習を集中して行うことができた。大学での講義では、文章の訳読などが中心で、日常会話についてはあまり練習できず、また、各講義が週一回のみであるため、継続的な学習が難しい。しかし今回の夏季講座では、週 5 日間連続して同じプログラムの授業を受けられ、また、授業は日常的な表現から始めて何度も反復練習するという方式であったため、理論として学んだ内容を、実際に使われる形の生きた言葉として学ぶことができた。また、質問の時間が授業中に多くとられたため、ロシアだけでなく他の国からきた生徒と意思疎通する訓練もできたし、その際さまざまな立場からの意見を交換することで、ロシア文化についての理解を深めるとともに、日本文化についても相対化して見ることができた。自分にとっては海外に出るのは初めてであり、本で読んでいたこととは異なる新鮮さがあった。色々と不安もあったが、東大からの参加者に加え、クラスにも日本人受講者が多かったため、様々な局面でお互いに助け合うことができたと思う。書店においてはロシアや東欧の文化に関する様々な資料を入手できたため、今後の研究に役立てていきたい。